

## 「肝移植を経験した患者の服薬に対する思いの検討-患者と家族の語りから-」 に関する研究

### 1. 研究の対象

自治医科大学附属病院、移植外科通院中の肝移植後 1 年以上を経過した高校生以上のレシピエントとその親

### 2. 研究目的・方法

生体肝移植におけるレシピエントの長期生存率は、成人では 10 年で 64.5%、小児では 83.2%と報告されており、当科における小児生体肝移植の 10 年生存率は 95.5%となっています。成人と比較して小児期に肝移植を経験した患者の長期予後は良好ですが、移植後長期経過した患者の中には難治性の免疫性肝機能障害を合併し、グラフト不全（移植した肝臓が機能しなくなること）に至る患者も存在します。長期経過した患者では、怠薬を認めることがあり、肝機能障害やグラフト不全の一因と考えられています。思春期の患者においては、怠薬の頻度はさらに高いと報告されており思春期は、心理社会的に不安定な時期にあり、怠薬のハイリスク状態にあると考えられています。当科においては、移植後中学生以上 125 例のうち怠薬を 33.6%に認め、そのうちの 78.6%に肝機能障害、8.1%にグラフト肝不全を認めています。

そこで、本研究は高校生以上のレシピエントとその親を対象に、疾患や服薬についての思いを明らかにすることで、服薬アドヒアランス向上に向けた具体的な看護支援を検討します。本研究結果から、肝移植を経験した患者が健康を保持しながら、よりよい生活を営むことにつながると考えます。

対象者より承諾が得られた場合、定期外来受診時にインタビューを行います。インタビューは出来るかぎり診察までの待ち時間を用いて、外来診察室または別の診察室で対象者と研究者の 1 対 1 で行います。インタビュー時間は 30 分～1 時間程度とし、IC レコーダーへ録音するためプライバシーに十分配慮して、1～2 回行います。

この研究を行う期間は、研究が許可されてから平成 30 年 3 月 31 日までです。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

診療録より、今までの治療経過について、性別、年齢、就学・就労状況、原疾患、移植時年齢、移植後経過年数、家族構成、家庭環境、標準肝機能検査データ（総ビリルビン、直接ビリルビン、AST、ALT、 $\gamma$ -GTP、アルブミン、コリンエステラーゼ、総胆汁酸）、肝生検結果、服薬状況（内服薬種類、薬物血中濃度）の情報を収集します。

IC レコーダーに録音されたものを逐語録として起こし、連結可能匿名化したうえで、研究に使用します。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

問い合わせ先：自治医科大学 移植外科 教授 水田耕一

自治医科大学附属病院 移植・再生医療センター 尾沼 恵梨香

住所：329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1

電話番号： 0285-58-7465（内線 6309）

e-mail： jichiishoku @ jichi.ac.jp

研究責任者：

自治医科大学附属病院 移植・再生医療センター 尾沼 恵梨香